



「大イワナとの出会いと膨らむ期待」

開催日: 2023年7月9日～10日

メンバー: 平江誠(リーダー)、齊藤敦、
大貫和之、黒須悠輔

報告者: 黒須悠輔

齊藤会長を除いた関東組3人は私の車で集合場所のダムへと向かう。この場所はさすがに遠く、運転も疲れてきたため、大貫さんにバトンタッチ。長い林道を進むと、既に集合場所に着いている会長の車が見えてきた。

怪しいライブ映像が流れる不思議な雰囲気の中、会長の車へ全員乗り込み、前夜祭スタート。前夜祭は最近の釣行の話ネタに大いに盛り上がった。ただ天気予報では二日目以降、強い雨になる見込みのため、二泊予定だったのを一泊にする可能性もあるとのこと。天気予報が外れてくれることを願いながら外にブルーシートを敷いて就寝する。

(1日目)

ダムからしばらく林道を歩く。林道は最近使われていないようだったが、快適に歩くことができる。



ダムからしばらく林道歩き



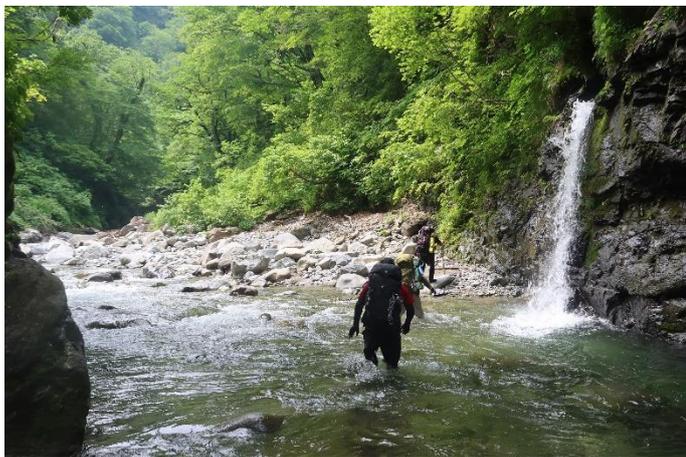
源流スペシャリストの齊藤会長と平江副会長



本流がダム湖に注ぐ地点から入渓



豊富な水量の中を進む



マイナスイオンを感じながら

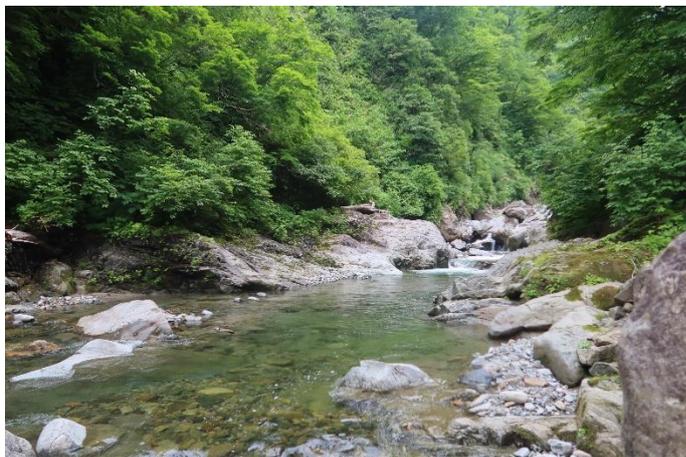
数時間ゆっくり遡行したところで丁度良い砂地を見つけ本日のテンバとする。いつものようにタープを貼り、薪を集める。平江さんと齊藤さんはさっそくテンバでのんびり。私が釣りに行きたくてウズウズしているのを察したのか、刺身に相応しい尺岩魚を2匹釣ってこいと命を受け、大貫さんと一緒にただちに出陣する。

魚影はそれほど濃くないが、サイズが大きく、8~9寸がよく釣れる。気持ちの良い天気の中か釣り進んでいくと、大きな淵の瀬尻に何かがいるのが見えた。

でかい！！

50センチ位あるぞ！潜水艦イワナだ！

ダムから遡上してきた岩魚だと思うが、このダイナミックな溪相なら居着きの岩魚の可能性もある。当然、このサイズは今まで何年も生き残ってきただけあり、そう簡単には釣れない。テンカラの大貫さんとエサの私でそれぞれ全力で挑むが、岩魚の鼻先に流しても、全く興味が無いようでスルーされる。私たちが真横に立っても悠然と泳いでいた。



ダイナミックな溪相が続く



潜水艦イワナ 立派な尾びれが見えるかな？

この川には大イワナがいる。それが分かったことで私のスイッチが入った。しばらく進むと、これまた大イワナがいそうな淵が見えてきた。瀬尻で水面にエサを流してから徐々に奥に進む。最後、深場のポイントでブドウムシを沈めてゆっくり流すと、モソモソと目印が動いた。バシッと合わせを入れると、ゆっくりと動き始めた。水中で魚体が輝く。でかい！さっき見た潜水艦イワナほどではないが、尺は間違いなく超えている！岩魚に空気を吸わせて落ち着かせた。そして水面から離れないようにスウーと寄せてキャッチ！幅広で丸々と太った立派な尺上岩魚であった。大貫さんもどれどれと竿を出す。すると全く同じポイントでアタリが！それも私のより少し大きいではないか。これも見事にキャッチ！無事に刺身用のネタを確保することに成功した。



巨岩の上でくつろぐ大貫さん



尺上岩魚を釣り上げたポイント



尺上に大満足の二人

～【ワープする男】～

ルンルン気分でテンバに戻ると、平江さんが**鬼の形相**で立っている。

平江さん :「**遅いよお！** 約束の時間よりだいぶオーバーしてるぞ！心配したじゃないか！怒」

大貫さん :「えっ…今、丁度約束の時間(3時半)ですよ…」

平江さん :「何言ってるんだよ！今は4時半だから**1時間オーバーだよ！**怒」

黒須 :「私の Garmin は3時半…大貫さんのスマホは？」

大貫さん :「俺も3時半…」

平江さん :「なに！？じゃあ**俺の腕時計が壊れてるのか？**」

大貫さん、黒須「そうだと思います」

平江さん :「そうかあ！（ばつが悪そうなご様子）」

とんだ濡れ衣で一時はどうなることかと思っただが、どうやら平江さんの腕時計は内臓されている世界時計機能が山の影響で狂うのか分からないが、他国の時間に勝手に時差修正されてしまう(つまりワープ)ことが判明した。(…そんなことあるのか?)

平江さんは、これ以降の沢で腕時計の時間が合っているのか疑心暗鬼となってしまう。(新しいの買わないんですか…)



テンバのそばに**水場**があったが、**氷水かと思うほど冷たかった**。上に雪渓があるのか、はたまた湧き水なのか分からないが、本当に冷たかった。この冷たい水を活かしビールをキンキンに冷やすことができたし、大貫さんは絶品ティラミスを作ってくれた。最高です！

深夜、テンバで熟睡していると、平江さんと大貫さんが、「**かゆい！かゆい！**」と言い、起き始めた。どうやら蚊に相当やられたようである。(私はシュラフを完全に閉めていたため無事)齊藤さんは肩から上を小型の蚊帳で覆っているため、顔を出して熟睡していた。齊藤さんの便利グッズにはいつも驚かされる。



源流ティラミス

(2日目)

早朝、私の GarminGPSMAP 衛星通信で現在地の天気予報を確認する。やはり天気は下り坂で強い雨になる模様。増水すると渡渉困難となり帰るのが難しくなる。あと1日残していたが、下山することに決定。潜水艦岩魚への挑戦は、来年に持ち越すことになった。皆様、お疲れさまでした！また来年ですね！



帰路、齊藤さんが「珍しい模様の石だなあ」と私のザックに入れることを狙っていた 25kg 位の石ささすがに無理です・・・



来年、また来ましょう！